



通学路にある獅子
柚子(ししゆず)の
実。とても大きい
果実なので実習生
の皆さんの目を引
いています。

あじけん通信

2018 NOVEMBER
VOL.130

株式会社きぼう国際外語学院
企画・編集 澁谷 健司

立冬も過ぎ、暦の上では冬となりましたが、日中はまだ汗ばむ日があるなど、今年は例年に比べて穏やかな冬の訪れとなっています。それでも朝夕の冷え込みは、次第に厳しさを増して来ています。登下校時には、早くも厚手の上着を着込む実習生の姿を見かけることが多くなりました。

授業では、うがい・手洗い、重ね着や、暖かい下着の着用など、日本の冬を元気に乗り越えるための生活習慣の定着の呼びかけが始まりました。

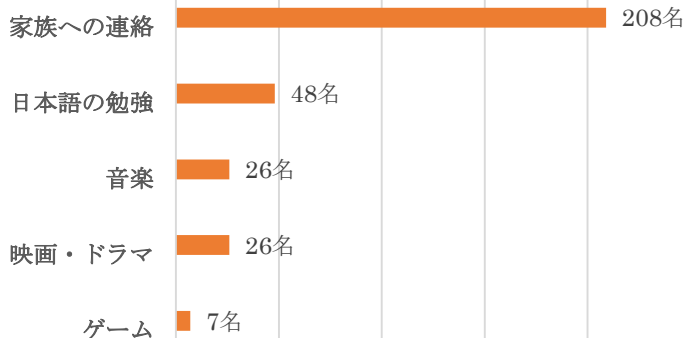
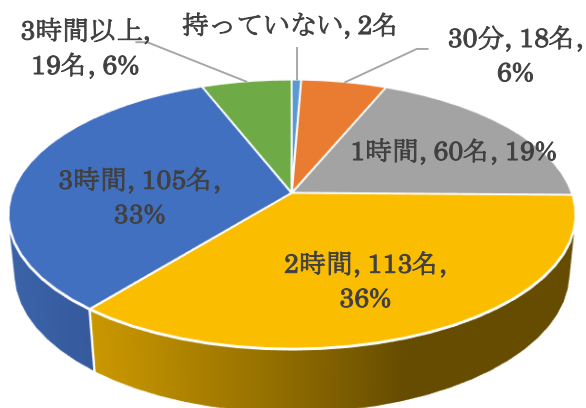
アジ研実習生寮には、念願だったキッチンやダイニングルーム等の共有スペースを暖めるガスファンヒーターが各部屋に設置され、寒さ対策は万全です。

あじけんスコープ Vol.69

～実習生の「スマホ」事情～

今月のあじけんスコープでは、入寮中の実習生にスマートフォンの利用状況について行なったアンケートの結果をご紹介します。アンケートでは、平日のスマートフォンの使用頻度(時間)と、使用の主な目的を家族との連絡・日本語の勉強・音楽視聴・映画ドラマ鑑賞・ゲームの5項目の中から1つ選択してもらいました。

結果をまとめた下のグラフから大半の実習生が、家族との連絡のために、1日2時間～3時間以上の長時間に渡って、スマホを使っていることが分かりました。よくやっている姿を見かける「ゲーム」の回答が極端に少なかったりと、実習生の正直度?も見え隠れするアンケート結果となりましたが、本校実習生のスマホへの依存度が高いのは明らかで、寮での学習時間の減少や、睡眠不足の一因になっているとも考えられています。校則で禁止しているトイレ休憩時のスマホ使用も後を絶たない現状(本校では違反者のスマホは本人の同意を取り、一晩預かることになっています)から、今後は、スマホの利用に対して新たな規制を設ける事も検討しています。



今月の実習生

今月は、休み時間の教室で、自作の漢字カードを机に広げ、熱心に漢字の勉強をしていたタイ人実習生 BOONYO TONGCHAI (ブン) さんを紹介します。

左の写真の漢字カードは、インターネットで見つけた漢字一覧表を少し厚めの紙に印刷して自作したそうです。カードの後ろには自分で書いた読み方とタイ語の意味が付けられていて、カードを1枚1枚裏返しながらか、読み方と意味を覚えるそうです。これまでに、200語の漢字の読みを覚えたそうです。



私は来年 N3 のしけんにごうかくしたいです。から、私は かんじをよむことがひつようです。今このカードをつかって まいごち N3 のことばのかんじをべんきようしています。このカードは とても べんりです。

あじけん流日本語授業 ～先生もお勉強！～

今月のあじけん流日本語授業は、本校が定期的に行なっている講師研修会の様子をご紹介します。講師研修会では、先月ご紹介させて頂いた実習現場の訪問の他に、日本語カリキュラムの内容検討、定期テストの内容検討、指導法についての意見交換会等が行なわれています。

その中で、今回は、指導技術を高める為に行なわれる「研究授業」の様子をご紹介します。指導項目は「(い形容詞) +くします、(な形容詞) +にします」。この文型は、日常会話では「～して！」の形の指示表現とともに使われることが多く、実習現場では「ここ、もっとみじかくして!」「この部品もっときれいにして!」等の表現で、使われることが多いと考えられています。しかし、実習生が、日本語で、意味用法を理解し、習得（実際に会話に応用出来るようになる）するには、難易度の高いな指導項目の1つとなっています。

研究授業は、直接法での指導経験が豊富で、会話力の向上にも定評がある本校常勤講師の矢野順（やのじゅん）先生が授業を行ないました。他の講師は、矢野先生の授業を見学することで、学習項目の意味用法の説明の仕方、口頭練習のさせ方、応用練習の具体例、学習者への接し方、適切なフィードバックのタイミング等を勉強しました。また、日頃は、指導者としての立場から実習生（学習者）を見ている先生方が、授業の見学者になることで、一步引いた目線から、実習生の皆さんの学習活動を観察したり、学習内容の理解度の確認をしたりすることでの、新しい気づきもありました。

授業見学の後は、授業者（矢野先生）からの授業のポイントや反省点、見学した先生方との授業内容についての質疑応答が行なわれました。研修後のレポートには、「実習生への話し掛けのスピードや、話し方のテンポがよく、参考にしたいと思った」「実習生自らが考える時間が多く、学習者主体の授業展開が参考になった」など、日頃の自分自身の授業と照らし合わせた感想が数多く聞かれました。

実習生のみなさんが、より楽しく、効果的に日本語を身に付けることが出来る授業の実践に向けて、これらも講師一同、実習生の皆さんに負けぬように、研鑽を積んでいきたいと思ひます。



授業者の矢野先生と授業を見学する講師陣



レリア（実物教材）を用いて対話する矢野先生（導入時）



実習生の理解度を確認する講師の先生方



自作の対話例をペアで発表する実習生（応用練習）

※ 当校ホームページ <http://www.ajiken.jp/> から「あじけん通信」バックナンバーもご覧になれます